

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
(以下「ディズニー」という)
第二十三回ディズニー・チャンネル/ディズニーXD放送番組審議会
議事録

開催日時 : 2014年11月21日(金) 17:30~18:30
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ
ショナル ジャパン
スタジオ・ディズニー会議室
在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 5
出席審議委員氏名 : 阿部 京子
木下 美子
戸田 奈津子
前田 耕作
山田 顕喜
その他、ディズニ : 編成部門担当者5名
ーからの出席者

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
 - ・「ハイ・ホー7D」
 - ・「ザ・ペンギンズ from マダガスカル」
 - ・「ディスク・ウォーズ:アベンジャーズ」

審議の概要

- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD番組編成について
ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。
(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)
 - ディズニー・チャンネルでは、11月1日からチャンネルロゴやパッケージが新しくなりリフレッシュされた。また、1日には「ディズニー・チャ

ンネル・フレッシュ・ラッシュ！」と題した特別編成で、人気番組の新エピソードを一挙放送した。

- 11月18日にも「ハッピーバースデー！ミッキーマウス」の特別編成をやり、その中で「ミッキーのミニー救出大作戦」を日本初放送した。
- この作品に登場するミッキーの顔は、今のミッキーとは少し異なるのだろうか？
- 過去のクラシック短編アニメーションと新規制作の映像との合成である。
- 12月には、映画「塔の上のラプンツェル」や来月公開の「ベイマックス」の特別番組を放送予定。

- ディズニーXDでは、今月から「団地ともお」が放送開始。木下ともおというごく普通の少年が主人公で、マンモス団地に住むともおや、彼を取り巻く人たちの日常を描いた作品。昭和風な雰囲気です。
- また今回お見せした「ザ・ペンギンズ from マダガスカル」も好評放送中で、人気がある作品。

2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について

ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

『ハイ・ホー7D』について：

- 今年から制作された新シリーズ。ハイスピードで、テンポのよいストーリー展開が特徴。7月19日に先行放送し、8月10日からレギュラー放送が開始。
- ファンサイトのレビュー等でも、「不快にさせる要素や汚らしいもの等なく、子供たちに安心して見せられるショー」、「非常に勢いよく、面白い」、「いまどきっぽい（テンポが速い）」といった内容の感想が載っており、全体的に好印象。
- 本来のアニメーション作品らしい良さがある。
- 白雪姫の劇をやると、子供たちは七人の小人を演じたがる傾向にある。7Dのメンバーそれぞれの特徴が、もっと見たい。
- シリーズが進むにつれて、各エピソードで彼らそれぞれの特徴が詳しく描かれている。
- まだ白雪姫に出会う前、という設定とのことだが、しあわせ女王は彼女の

母親なのだろうか？

- 血縁関係ではない。だが、7人の小人たちの設定自体はそのまま。
- 悪役がそんなに悪過ぎず、抜けているところがあって可愛らしい。
- 子供にとって分かりやすい。

『ザ・ペンギンズ from マダガスカル』について：

- もともとは映画「マダガスカル」に登場した4人のペンギンたちが主人公。彼らが活躍するスピノフ的なシリーズで、約11分×144話。ディズニーマジックXDでは今年の2月3日から放送開始。
- ファンの感想にも「ペンギンズのチームワークと連携が見事で、見ていて気持ちいい」「キャラがユニークで台詞も面白い」といったコメントが見られる。
- シリーズ途中でディズニーが日本初放送となるエピソードの吹替え制作をすることになったが、アフレコの現場もとても盛り上がり雰囲気が良い。アドリブが多く入るが、それがこの作品の面白さをさらに引き出している。そのあたりは大事にしていきたいところ。
- 吹き替えるにあたって、自分たちの言語に合わせると、より身近に感じられるので良い。英語の直訳にしてしまうと、日本語で早口になってしまい、会話として現実的ではない感じになるので、これは大事にしてほしい。
- ペンギンズの各キャラクターの見分けるのが難しいと感じた。
- 会話の内容も面白く、ペンギンズの動きが良い。
- 吹替えに違和感がなく、すんなりと入れた。

『ディスク・ウォーズ：アベンジャーズ』について：

- こういった完全なローカライズというのは、マーベル自体も初の試みで、全メディアや商品を使っての新作の展開は、ディズニーとしてもめずらしいケース。
- 今後は、まずアジアから放送開始する予定。
- 対象年齢と思われる子供たちは、そろそろ受験等で忙しくなるのでは？
- 8～10歳の子供たちがターゲットとなっていて、好評を得ている。
- ディスクには、昔懐かしいメンコの要素も有り、ストレス解消にもなる。収集もできるので、父親たちも取り入れていきたい。
- この作品を見て、ガンダムを思い出した。
- テンポがあって面白かった。ストーリーに連続性があるところも良い。

- オープニングテーマなどを見ていると、難しい用語も多いと感じた。だが、子供たちにしてみれば、意外とそういった要素も簡単に吸収してしまうのだろう。
- 確かに。子供たちは、制作サイド並みに詳しい。
- 今回見たものでは敵は一人（ロキ）だけだが、他にもいるのだろうか？
- 今回の敵はロキだが、彼には多くの手下がいる。他の敵もおり、大人の悪者に、子供たちと同様のバイオコードが埋め込まれており、子供VS大人の対決にもなっている。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので18：30に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。